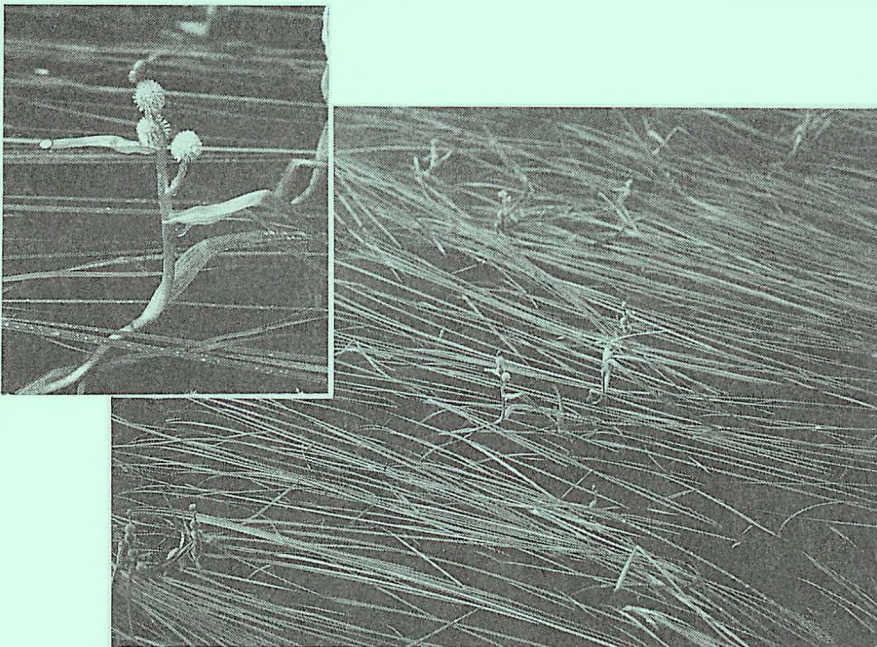


水草研究会会報

48号 (1992年12月)



Bulletin of Water Plant Society, Japan

No. 48 (Dec. 1992)

水草研究会

目 次

相生啓子：生態系思考－アマモから見た水界－	1
内山 寛：沖縄・八重山諸島のイバラモ属植物	6
田中 修：アオウキクサの花芽分化誘導機構	9
安原健允：フジマリモについて	17
杉浦忠睦：山中湖産フジマリモの特性	19
中村俊之：大阪府堺市におけるため池の水生植物の現状	24
平碇雅子・角野康郎：日本産アオウキクサ属植物	
－研究の現状と今後の課題	28
外山雅寛：北海道新分布のホッスモと弁天沼の水生植物	34
短報 外山雅寛：空知郡南幌町の水生植物数種	27
南 敦：山口県柳井市に再びシチトウ	27
南 敦：山口県にホソバオモダカ	33
外山雅寛：これは何ぞや－正体不明の水生植物	36
斉藤吉永：ナガエツルノゲイトウ印旛沼に多産	37
星 一彰：福島県裏磐梯のコカナダモ，オオカナダモ	38
総会報告，他	

〔表紙写真〕ホソバウキミクリ（長野県，1992年8月）

前号に引き続き、今回もミクリの仲間になった。夏に信州旅行をしたとき、何気なく立ち寄った場所で思いがけなく見つけたホソバウキミクリ。花の盛りに興奮して、持っていた2台のカメラのフィルムを全部使ってしまった。浮葉性のミクリ属は高山の池にあるのが普通で、開花と巡り合わせる機会は案外少ない。そのため種の同定もままならず、分類学的研究も十分に進んでいない。Cook & Nicholls(1986,1987)のモノグラフによれば日本には3～4種の浮葉性ミクリ属が産することになっている。今、この結果を検討しているところである。

（写真と文 角野康郎）